

自分の考え

伊勢原市立成瀬中学校

三年

佐藤

れあ

私のひいおばあちゃんは今私達が伊勢原に越して来る少し前に介護施設に入りました。私の記憶にあるひいおばあちゃんは今も施設のベッドに寝ていて、歩いているところをあまり見たことありません。そんな中でもすごく印象に残っていることがあります。

家族で施設に行ったときです。施設では子

どもも大人も必ずマスクをしなければいけませんでした。その時は、コロナウイルスなどの感染症は流行っていたので、マスクを着けるには慣れておらず、マスクの独特の匂いと付け心地が苦手でした。ひいおばあちゃんの部屋に行くと、顔を見せると、私の父の顔を見て、

「違う。私はこんな大きな子産んでいない。とおじいちゃんとお父さんを勘違いしてました。それを聞いてみんなが笑いました。私は多分

それが初めて聞いた声だったと思います。
コロナウイルスが流行り、施設へ行けるの
が大人だけと制限される中、ひいおばあさま
んが誤嚥性肺炎になり、共同病院に入院する
ことになりました。祖父と祖母は近くに住ん
でいないので、私の母が病院に行くことにな
りました。母はほぼ毎日病院に行ってお洋服
を持ってきたり、持って返って洗濯をしてい
ました。もちろん洗濯する服には排泄物がつ
いているので、手洗いをしなければなりません

ん。それを見ていた私は介護にあまり良い印
象がありません。手洗いをしていたときにも母は
泣いていました。毎日のように病院に行って
家の家事をして、自分の仕事にも行く、考え
ただけで、相当辛かったと思います。周わり
に相談することが出来る人が居れば、もう少し
元気持ちが乗になれたのかなとも思い出し
し考えます。それだけ泣いていたのが衝撃的
でした。今は高齢化の社会なので、これから
もっとこういう人が増えていくと思うと、悲

しいです。市役所のトイレに行くところまで
アラーの電話相談の電話番号が書いてあるの
を見たことがあります。相談する所があるの
って本当に気持ちよくなると思います。で
も、本当に相談出来るのでしょうか。私は出
来ない子のほうが多いと思います。家庭事情
が我慢すればいいと思って相談出来ていな
い子絶対たくさんいると思います。そういう
子がいかに相談しやすい環境を作るかどうか

が今の課題だと思っています。課題解決のために
相談してくれて、問題が解決した子にどうし
たら相談しやすかったかを聞いてみるとい
いのではと私は考えました。

自分の経験や介護を見てきて、やっぱり介
護って大変だねと思います。でも介護って
絶対誰かかかなくてはいけないと分かっ
ていながら、私ほしたくないなと思っ
てしまいます。自分もいつかされる側になるので、介護
したくないなと思っ
ている人に介護されたく

ないです。けど、今は介護に関して良い印象
かたいたです。介護は本当に大切なことだと分
かっているのので、自分の考えがもっと深めら
れればいいなと思います。